

シンポジウム「今後の政府統計のあり方とその有効活用」の開催

1. 主 催 日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
パブリックヘルス科学分科会

共 催 日本公衆衛生学会

2. 日 時 平成19年10月24日（水）18：00-20：00

3. 場 所 愛媛県民文化会館（愛媛県松山市）

4. 開催趣旨

パブリックヘルス科学分科会は、衛生・公衆衛生学領域における学術研究の一層の促進を図るための重要な課題の一つとして、「疫学・統計データの有効な活用と個人情報の保護」を取り上げることとし、シンポジウム等を開催して幅広い関連領域の専門家等との討論を積み重ねた上で、日本学術会議として第20期の終了時（平成20年9月）を目途に報告書を取りまとめることとした。

この趣旨に沿って、第1回目のシンポジウム「衛生・公衆衛生学における学術研究と個人情報保護－疫学研究・統計調査の円滑な推進とデータの有効活用のために－」を平成19年3月28日に開催し、個人情報保護と疫学研究の推進、政府統計資料の有効活用についてどのような視点と方策を採るべきか、分野横断的に討議した。この中で、政府統計資料については、一次データ（ミクロデータ）を多くの研究者が多角的に活用できるようにすべきだとの指摘や、各種の政府統計資料を相互に個人ごとにリンケージできるようにすべきだ等の提案がなされた。

一方、2007年5月23日に新統計法が公布され、2009年4月1日の完全実施に向けて、政令や省令の整備、政府統計に関する利用の手順等について定めていくこととなっている。

また、新統計法には、おおむね5年ごとに公的統計の整備に関する基本計画を変更することなどが盛り込まれている。

こうした状況を踏まえ、パブリックヘルス科学分科会は、今後の政府統計は如何にあるべきか、またその有効な活用をどのようにすべきかについて、公衆衛生的な立場から議論を深め、論点を整理することが、重要かつ緊急の課題であると考え、本シンポジウムを企画した。

5. プログラム

開会挨拶 岸 玲子（北海道大学大学院医学研科社会医学専攻予防医学講座教授 日本学術会議会員、日本学術会議基礎医学委員会・健康生活・科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会委員長）

座 長 小林章雄（愛知医科大学医学部衛生学講座教授、日本学術会議連携会員）
小林廉毅（東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野教授、
日本学術会議連携会員）

報 告 者

福田吉治（国立保健医療科学院疫学部疫学情報室長）
祖父江友孝（国立がんセンター研究所がん情報研究部長）
橋本英樹（東京大学大学院医学系研究科臨床疫学・経済学教授）
笠島 茂（国立保健医療科学院公衆衛生政策部行政政策室長）

閉会挨拶 實成文彦（香川大学医学部人間社会環境医学講座教授、
日本学術会議連携会員、パブリックヘルス科学分科会副委員長）

6. お問い合わせ先

学術部会事務局（公衆衛生学会事務局）
（学術プログラム関係） 愛媛大学大学院 医学系研究科 医療環境情報解析学講座内
〒791-0295 愛媛県東温市志津川
TEL (089) 960-5283 FAX (089) 960-5284
なお、事前申し込みの必要はありません。